

彩の歳時記

平成二十四年 三月



「江碧にして鳥逾白く 山青くして花然えんと欲す 今春看又た過ぐ 何れの日か 是れ帰年」
「江川の水が碧いので、鳥の色が一層白く引き立ち、山は青く、花は燃えあがらばかり。今年の春もむなしく過ぎ去ろうとしているが、いつになったら（戦乱が収まって）故郷に帰ることが出来るのやら。」

詩聖・杜甫【712～770】の絶句。杜甫の詠んだ無題の詩は絶句と呼ばれる。後段「何日は歸年」という件は、

原子力発電所の事故によって、今も強制移住させられている人々への思いにかさなり、いたたまれぬ感情にかられます。杜甫の時代は山も川も汚染されておらず「国破れて山河あり」でしたが、それもない現状に心が痛む春です。



三月の異称

弥生

弥生は、いよいよ・ますますの意。植物が、ますます生まれる月。花月・桜月・桃月。

濃（こまや）かに 弥生の雲の 流れけり 漱石

三月の暦

三日 桃の節句(上巳の節句・ひな祭り) 平安時代以前、貴族の子女らが、天皇の御殿や装飾を

模して遊び、厄除したことに由来。上巳(じょうし)は、三月上旬の巳(み)の日であったが中国三国時代の魏(ぎ)の曹操(そうそう)の長男曹丕(そうひ)によって三日に定められたと言われる。



五日 啓蟄【二十四節気】大地が暖まって、冬の間地中にいた虫が這い出てくる。

十日 東京都平和の日 1945年(昭和20年) 米軍の空襲により、死者約10万人、焼失家屋約27万戸という第二次大戦で最大級の被害を出した。都民が平和について考える日として1990年に制定。

十二日 奈良東大寺二月堂お水取り 若狭から運ばれた水を本尊に供える。夜、鐘の合図で

籠松明(かごたいまつ)を手に僧が回廊を駆け抜ける。火の子を浴びると除災になると多くの観衆で賑う。



十四日 ホワイトデー 1978年にバレンタインのアンサーデーとして制定。砂糖の白に由来。

十七日 彼岸入り 太陽が真東から昇って真西に沈む秋分と春分は、彼岸(あの世)と此岸(この世)がもつとも通



岸の歌

二十日 上野動物園開演記念日 1882年(明治15年)開園で、今年130周年。イベントも多く予定され、パンダ人気・春休みと相まって親子づれで賑う。

二十日 春分の日【二十四節気】春彼岸の中日。昼夜の長さがほぼ等しい。

二十九日 風信子忌 詩人・建築家、立原道造【1914～1939】の忌日。



ギリシヤ神話のヒアシンサス伝説に心を寄せ、自らの詩集を風信子叢書と名付けた事に由来。「日本の現代詩において天使のイメージに最も近い存在」と評され、今も読者が多い。辰野金吾賞を三年連続受賞・中原中也賞も受賞。建築家・丹下健三は東大の一歳下の後輩。惜しくも、21歳で夭折。

三月の歌

かすみか雲か

原曲は、ドイツ民謡『春の訪れ』。1883年(明治16年)『小学唱歌集』。詞は加部巖であったが、現在の詞は勝承夫(かつしむ)【1902～1981】のもので

1947年(昭和22年)に文部省の教科書に掲載された。勝は、戦後、音楽教育に参画、日本著作権協会会長を歴任、多くの校歌を手掛けた。昭和28年「駅伝を讃えて」の詩を読売新聞に発表、箱根駅伝90回記念の時、詩碑が復路スタート地点・芦ノ湖畔に建てられた。音声合成のバーチャルアイドル初音ミクが歌い、インターネット動画で配信されている。

かすみか雲か ほのぼの
野山をそめるその花ざかり
さくらよさくら 春の花
のどかな風に さそわれて
小鳥もうとう その花かげに
いこえばうれし わか草も
したしい友と きてみれ
ひときわたのし その花ざかり
さくらよさくら 春の花